大学入学までに予習の習慣を身に着けよう

―大学の授業は予習を前提に行われる―

開倫塾
塾長 林　明夫

Q：大学入学までに予習の習慣を身に着けようとは、どのような意味ですか。

A：(1)開倫塾で学んでいる塾生の皆様の大半は、高校卒業後に大学や短期大学、専門学校、専修学校など、いわゆる高等教育機関に進学します。(以下、大学と省略)

(2)大学での授業の大半は、予習、つまり、①授業の前にその日の学習範囲の教科書や教材などを読み終えておくこと、②事前に与えられたその日の課題について調査をし、考えをまとめておくこと、この二つを前提に行われます。

(3)この①と②の予習は、小学生や中学生、高校生としての勉強にもとても役に立ちますので、この習慣を１日も早く身に着けることを強くお勧めいたします。

(4)この①と②の予習は、社会に出てから新しいことを勉強するときにもとても役に立つものです。学校時代にこの習慣をしっかりと身に着けてくださいね。

Q：具体的には、どのように予習したらよいのですか。

A：(1)テキストや教材、問題集などを用いて行う授業の予習の仕方を説明します。

(2)授業開始時間までに教科書や教材を一語一句ていねいに読み、そこに書かれている内容がうんなるほどと十分に「理解」できるまで考えることが第一です。

(3)計算や問題があったら、必ず自分の力でやってみる。その問題文と解き方、答えをノートに書き記すことも大切です。

(4)よくわからない「ことば」や「語句」があったら、「気持ちが悪い」と思い、その都度、辞書や用語集、各教科の学年別参考書を用いて調べること。調べた内容はノートに書き写した上で、テキストや教材をもう一度読み直し、どのようなことかを自分の力で考えることも大切です。

(5)①できれば、予習をした内容について、ノートも含めてスラスラとよく読めるようになるまで声を出して読んでみること。(音読練習)

②大切と思われる「ことば」や「語句」は、正確に書けるようになるまで書く練習をすること。(書き取り練習)

③「ことば」や「語句」の「～は――だ」という「意味」・「定義」や大切な公式、原理、きまりなどは「暗記」、つまり何も見ないで言えて書けるまでにしておくこと。

④大切な計算や問題は、見た瞬間に条件反射でパッパッパッと正解が出るまで練習しておくこと。(計算・問題練習)

(6)予習をしていてわからないところがあったら、印をつけておくこと。「何がわからないかをはっきりさせて授業に臨むために行う」のが予習です。

Q：先生から事前に課題が出されたときはどうしたらよいですか。

A：(1)その課題をどのように解決するかについて、自分でよく考えることが第一。

(2)調査すべきことがあれば調べる。資料が不足していたら、学校の図書室や市町・県の図書館で調べる。大学の図書館で調べる。インターネットを用いて調べる。

(3)実験や観察を行ってデータを取り、分析することが必要ならば、自分で工夫して行ってみる。それで足りないときは、学校の先生に聞く。また、図書館や科学館、研究所などを訪れて相談する。その結果をレポートにまとめる。

(4)このようにして、「わかったこととわからないことをはっきりさせて授業に臨むために行う」のが予習です。

Q：最後に一言どうぞ。

A：(1)予習で大切なのは、自分から進んで学ぶこと、「主体的に学ぶ力」を身に着けること。これが第一です。

(2)学び方を工夫すること、「学び方を学ぶ」こと。これが第二です。

(3)1教科でもよいですから、今回ご紹介したことを参考に、大学入学までに自分なりの予習の仕方と予習の習慣を身に着けてくださいね。

(4)そして、授業に熱心に参加し、必要なことはすべてメモを取り続けましょう。

(5)また、授業が終了したら、あとで勉強しやすいようにノートを整理し、それを繰り返し読み直すことで学習内容の「定着」に励んでください。

2016年10月17日(月)記

(宇都宮大学大学院工学研究所 客員教授)